

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成22年度第1回統計学委員会 議事概要

I. 日時 平成22年7月28日(水) 17:00~19:00
場所 社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 高橋、中西、今泉、渡辺 各委員 (事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

今回は、「学士力の到達目標を実現するためのICT活用(授業モデル)」について本委員会での方針を検討した後、前回委員会で中間まとめを行った「統計学での情報活用能力」について整理を行った。

1. 学士力の到達目標を実現するためのICT活用(授業モデル)

学士力の到達目標を実現するための効果的なICT活用について、各委員が持ち寄った統計学教育でのICT活用に関する実践事例や教材例を踏まえて、本委員会での方針を中心に以下の通り検討した。

まず、委員からの意見としては以下のようなものがあげられた。

- ・到達目標の「1. 社会におけるデータと統計の役割・限界を理解できる」と「5. 統計的な考え方・技能を活用して、実際上の問題に取り組むことができる」については、学生に考えさせることをしたいので、ここはICTを使わなくてもよいのではないかと考える。
- ・到達目標「1. 社会におけるデータと統計の役割・限界を理解できる」については、よいデータと分析例のアーカイブが必要。シミュレーションなどイメージを先に植え込むことで、体系的な理論の理解にICTを使えないか。
- ・アメリカなど海外では、概念の理解でICT教材を使っている。
- ・社会でデータの役割など理解させるのに、教材があるとわかりやすい。
- ・各教材はあるが、フォーマットなどもばらばらなので、サイトが整理され、アーカイブが統一されているとよい。

次に、事務局より統計学の教育の実践事例事務局より授業モデルは現在の実践例でなく5年先を想定しており、例えば理系分野では、質保証のためのポートフォリオによる学習の徹底や、考えさせるためのグループ学習などにICTをどのように活用すべきかが検討されている。4年間の教育の中で学びが身に付くような仕組みや教員との連携が不可欠となるとの説明を行った。

事務局の説明を踏まえて検討した結果、統計分野は1、2年次が基礎知識の習得、3、4年次が専門分野との連携による学びとなるので、専門知識と統計との融合という新しい授業スタイルを検討すべきで、各分野の教員に連携しやすいような提案として、各分野での統計の活用について考え方を提示することにした。

そこでまずは、各分野での統計の活用内容を調べて整理することにし、その上で授業モデルを検討していくことにした。

2. 統計学での情報活用能力の整理

中間まとめについて4件の意見が寄せられ、検討した結果、各意見について以下のように対応することとした。

- ① 本文中の「情報通信技術を活用して」については、「情報通信技術（PCを利用したインターネット等）を活用して」など、さらに具体的に示すかどうかの意見については、意味が狭くなってしまいうため、具体的に示さないこととし、「情報通信技術」は他分野と同様に「ICT」に置き換えることとした。
- ② 到達目標2「データを目的に応じて整理・分析し、表現するために、情報通信技術を活用できる。」の到達度「②統計分析専用ソフトを用いて・・・」については、表計算ソフトを使用しているデータ分析能力で充分ではないかと意見については、統計分析ソフトの存在を知ってもらい、体験させるのが目的であるので、原案のままとすることにした。
- ③ 到達目標1の【到達度確認の測定手段】「データ取得と結果の妥当性」は「データ取得とデータから導かれた結果の妥当性」の方が的確な表現との意見については、修正案のほうがわかりやすいので、意見の通り修正することにした。
- ④ 到達目標2の「データを目的に応じて整理・分析し、表現するために・・・」は、分析結果と課題も含めた方がより目標に相応しいとの意見については、分析結果を入れたほうが的確であるので、「データを目的に応じて整理・分析し、分析結果を表現するために・・・」と修正することにした。

3. 次回までの課題

各分野での統計の活用内容を把握しておく必要があるということから、各分野でどのように統計が活用されているのか、あらかじめ調べることにした。

4. 次回委員会

次回委員会は、9月14日（火）17:30より開催することにし、上記の課題をもとに授業モデルについて具体的に検討することとした。